

日吉台地下壕保存の会

会報

第1号

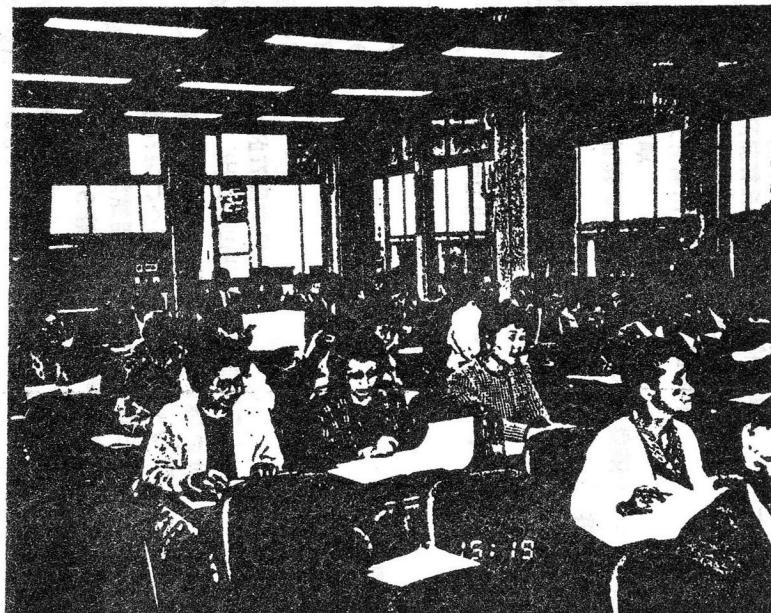
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 044-62-1282 (寺田貞治方)



結成総会で熱心に耳を傾ける参加者達

△△反撃場

永戸多喜雄

旧帝国海軍が第二次世界大戦の末期に、連合艦隊司令部その他機関を収容するため、日吉台に掘鑿した長大な地下壕（大部分は慶應義塾の敷地内）を、二十世紀の史跡として保存しようという会が発足してから一ヶ月になります。慶應義塾の教職員有志、空襲下の日吉で生きた人々、旧海軍関係者、地域で子供たちの教育にたずさわる教師たち、きわめて穏和だが、平和への熱い想いを胸に秘めた周辺の市民が、一つの目的のために、この会を結成したこと自体、数年前に地下壕調査を思い立ち、細々と活動を続けていた私たちにとっては、当初は夢にも考えなかつた割期的な出来事です。そして会の結成が割期的であればあるほど、会に加わる私たちの責任は重いのだと言わなければなりません。

日吉台の土のなかに横たわるあの地下壕は、太平洋戦争の歴史的な証人です。これから私たちは、めいめいがそれぞれの立場から、地下壕の証言に耳を傾け、二十世紀の最後を生きる私たちに地下壕がつきつける問い合わせに答えながら、設立総会が採決した目的を実現させるために、たしかな足どりで歩き始めましょう。

目 次

○会長挨拶	1
○地下壕保存の会結成に至るまでの経過報告	2
○運営委員・会計監査の紹介	2
○第一回 幹事会報告	2
○「地下壕保存の会」に参加して	2
○私の地下壕との出会い	3
○地下壕見学会	4
○地下壕ゼミナール	4
○地下壕保存と平和記念資料館建設の動きについて	4
○入会案内	4
○書籍紹介	4
○編集後記	4

地下壕保存の△云 結成に至るまで

の経過報

事務局長 寺田貞治

地下壕の調査をしていくうちに、地下壕のもつ歴史的な意味の重さを感じ、出来れば戦争と平和を考える原点として、この地下壕を永久に保存しなければという思いに至りました。昨年、市や区の職員の方々が十数名こられ、地下壕を史跡として何らかの形で残せないだろうかということことで、地下壕を案内したのがきっかけで「地下壕保存の会」の結成に向けて動き出しました。地域や慶應義塾の人々に呼び掛け、多数の方々に発起人（五五名）や賛同者（二百四名）になって頂きました。

次に「地下壕の保存を進める集い」の案内を出したりピラを配つたりした後、さる四月八日に慶應義塾大学藤山記念館で集いを持ち、「日吉台地下壕保存の会」が正式に結成されました。

集いには会場いっぱいの人々（約六十名）が参加し、三時より五時半まで熱氣あふれる話し合いがもたれ、会則や運営委員などが決まりました。

茂呂秀宏	永戸多喜雄	慶應大学名誉教授	事務局長	寺田貞治
細谷保治	秋本謙三	連合町内会長	事務局員	大西章
増田直樹	田辺昇	下田町自治会長	佐々木秀信	慶應高校教員
林栄美子	佐藤林平	慶應大学教員	加賀谷欣之助	慶應高校職員
梅沢滋隆	小瀬昭夫	慶應大学教員	森山高行	慶應高校職員
	幹事		天野香子	慶應生協職員
比留間淳一	皆川治法	消防士	会計監査	中沢正子
谷栄		わだつみ会常任理	公認会計士	佐々木秀信
日吉台中学教員		事	主婦	慶應会計士
農業				慶應会計士
慶應大学教員				慶應会計士
慶應大学教員				慶應会計士
慶應大学職員				慶應会計士

運営会員・△云 監査の紹介

会長

運営会員・△云
監査の紹介

第一回 幹事△云報

事務局長より、経過報告があつた後、幾つかの議題について討議した。

○活動の進め方について
①地下壕の見学会を年に何回か実施する。②その前に幹事が地下壕のことを詳しく知る機会をもつ。③調査班を組織して調査を至急始める。④地下壕関係者の話を聞く会を開く。

「地下壕保存の△云」に参加して思う

横須賀良子

殺し合うということが当然のこととなってしまう戦争の慘さ、これだけは二度と繰り返してはならないのだという強い思いで若者たちに向かって言い続けてうるさがれた時もあった。

○当面の具体的活動計画について
①五月九日（火）日本TVが放映する地下壕のビデオをとる。②五月十八日に幹事会を開き、その後で地下壕に関するゼミナールを

やる。③五月二一日（日）地下壕見学会を開く。

○会報の発行について

五月十日を目標に発行して郵送する。

○その他

①大学の課外活動で地下壕についてのセミナーを開き、学生にも知らせる。②ワシントンの公文書館に地下壕に関する資料があるかを調べる。③横浜市地域研究費を申請するかを調べてみる。

れだ」という思いで設立総会に参加したのでした。

ここでまたその地下壕にかかわりの合った三人のお話で風化しかけた私の心を戦争当時へとよみがえらして頂いたのです。

はじめに参謀中島重親氏が慶應に地下壕設置が決まるまでの経過を述べられた後、やや間をおいてから重い口調で「ここに地下壕を作ったために日吉の街が空襲にあらためて多くの家が焼かれてしましました。いまここで皆様に深くお詫び致します。」と深々と頭を下げられました。私はこの瞬間「四十三年間もこの思いをじっと胸に抱きかかえていたのだろうか」と驚きとその方の胸の痛さがジーンと伝わるような妙な思いでした。まだどこかで傷のうづきを持ち続いている人がいるのだということを知らされた。

海軍人事部の末国政雄氏からは壕の湿気のひどさとそのために書類や衣が湿ってしまい、天気の良い日をみつけでは米軍に見つかることなく知らなかつたということを伺う、ある特定の人以外全体を知らなければなりません。

最後に司令長官の従兵の金子善一氏が自分はただ一つだけの入口を出たりは入ったりしただけで他の入口の壕のなかのことはまったく知らない若い世代のことが、自分の子の通う幼稚園がこの壕の近くにあることを知り驚いた。子供たちは何も知らずに壕の上で遊びまわっている。是

されることなしに、部分的に与えられた任務をただひたすら遂行していましたことを知り得たような気がしました。

どなたかの話であつたかは忘れましたが、地下壕構築のセメントがなく田園調布の民家の壕を壊してきて代わりに当たが、最後にはそれすらもなくあとは素堀りのままあつたとのこと。各家庭の鉄の鍋や釜などは勿論、指輪類まで供出といって持もつていかれてしまったことは知っていたが、まさか壕構築のセメントまでも不足していたのかと敗戦間近の軍の現状をチラットだけのぞけたような気がしました。

ただこのことは単に当時の事実だけということではなく現代の経済大国といわれる日本の繁栄が他国からの資源依存がなくてはできないことにまで思いをはせてゆく必要があるのではと思えました。

経済戦争という別の形の戦いが

あります。あることを考えて、いかに他国と強調しながら平和を保ち続けるかまで考えてゆければという思いになりました。

最後に日吉台中の職員の方々や

非この壕をこの子達の未来までも平和であるために保存してゆきたいと思うと力強くおっしゃった。こうした若者がいるかぎり日本の平和はまだまだ大丈夫と思いまし

た。私も一緒に地下壕が戦争の事実として多くの人に目にふれ平和の尊さを感じることができる場所であるように記念館設立まで頑張らなくてはと大いに奮い立った一日でした。

最後に私の願いですが、今日みえられた方々は勿論の事ですが、ここにたずさわったより多くの人々のありのままの当時の事実を記録して、保存して頂ければ地下壕が生きた存在として受け継がれるのではないかと少しほがり（日吉台中三十年史の中に写真が掲載されていますが、（主婦）

ただこのことは單に当時の事実だけの論文のあることを知り、さく購入し永戸先生、寺田先生の文章を読ませて頂いたわけです。その後、日吉台中の職員の方々や私の属している小さな組合の方々を案内する立場で、再度、再々度と壕に入る機会をもつたわけですが、その中で今改めてこの壕を「歴史の証人」として保存し、学区・地域の現代史の戦争の「証人」として残す必要性をますます感じている次第です。

私の地下壕

と山口

茂呂秀宏

私が初めてこの地下壕に入ったのは昨年の秋のことでした。一年生の日本地理の授業で鶴見川の洪水の話をしたついでに学区の歴史について少ししゃべったのですが、それを聞いてI君がこの壕についての存在を教えてくれた。そして部活動の間に、この壕を案内

してくれたのでした。一年前ぐら

いに少しほとんどはいた

のですが、少し大きい防空壕ぐら

いにしか考えず、気にはしつつほっておいたのですが、この時、

